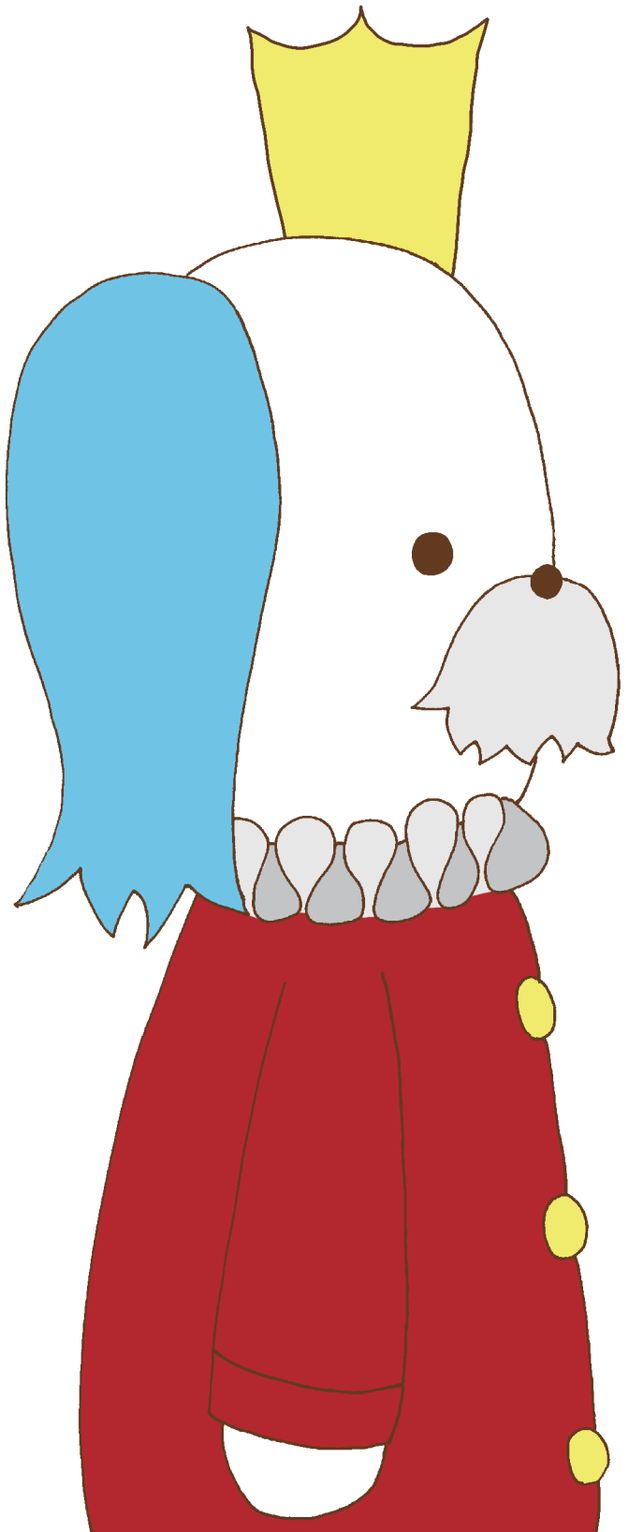
おたすけまん

え　と　ぶん　あおやまあいさ

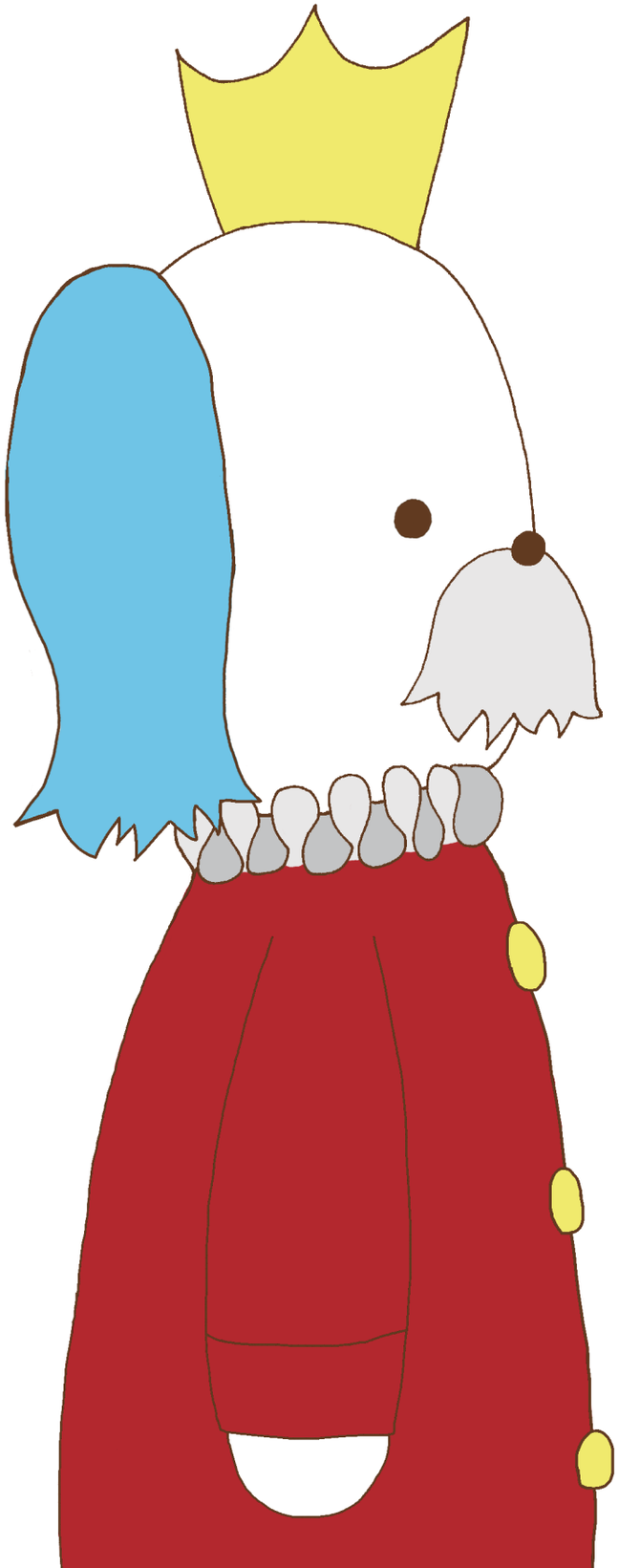
ゆうきくんは　いつもおたすけまんに
たすけて　もらっています。
いっしょに　あそんでくれるし、
おなかが　すいたときは　おにぎりを　さしだしてくれます。
ようちえんに　おくれそうなときは
そらをとんで　ようちえんまで　おくってくれます。

「きょうも　いっしょに　あそぼう！」
と　おたすけまんは　いって　ひろばに
はしって　いきました。
「あれ、　なんでだろう。　きょうは　はやくはしれない。
なんだか　だるいな・・・」
ゆうきくんは　かんじました。

「ぽーい！」
いつもなら　もっととおくに　とばせるのに、
きょうは　おたすけまんの　ところまでも　とばせません。
「なんだか　からだが　おもくて　ちからが　はいらない。」
ゆうきくんは　しゃがみこんで　しまいました。



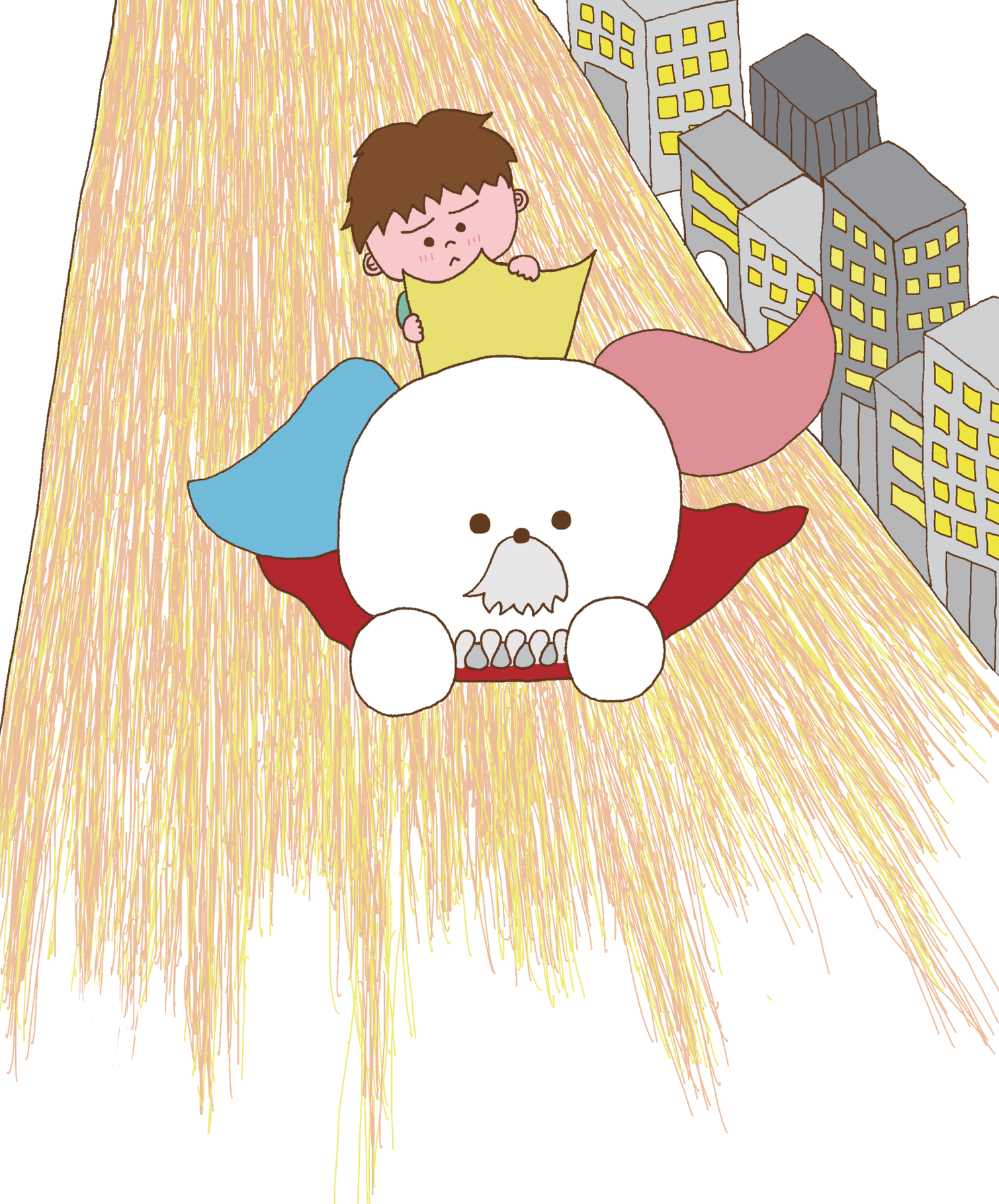
「きょうは　げんきが　ないのかな？
おなかが　すいているのかな？」
いつもとちがう　ゆうきくんに　きがついた
おたすけまんは　いいました。
そして　ゆうきくんに　げんきになって
もらおうと　おにぎりを　さしだしました。

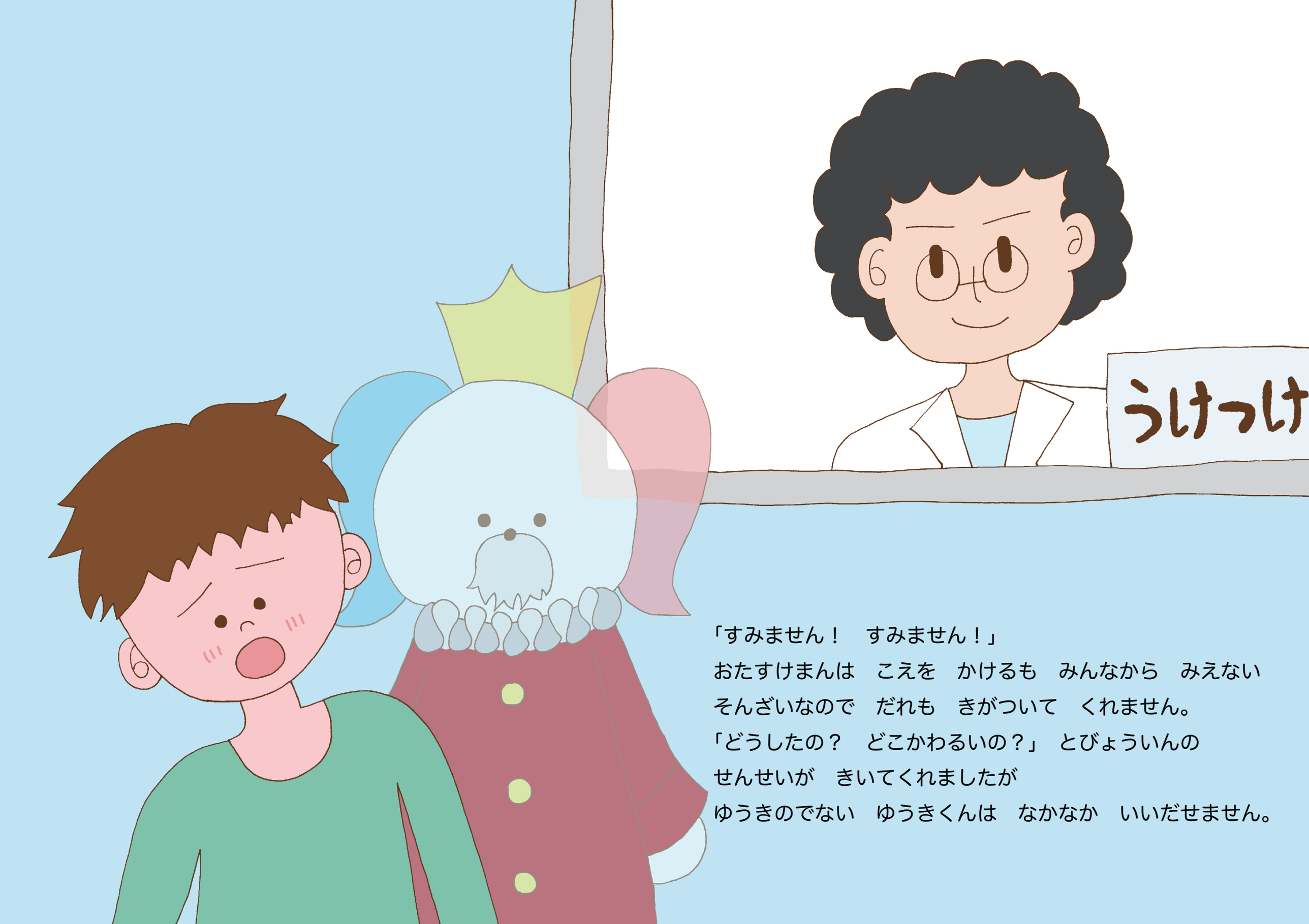


「きょうは　おなかが　きもちわるくて　たべれない・・・
たべたいのに　しんどいよ。」
ゆうきくんは　おもいました。
いつもなら　よろこんで　たべるのに　なぜか　たべれません。
「どうしたの？　ゆうきくん？　たべないの？」
おたすけまんは　ききました。

なんか　かおいろが　わるくないかい？
おたすけまんは　ゆうきくんの　おでこを　さわりました。
すると　ゆうきくんは　すごい　ねつでした。

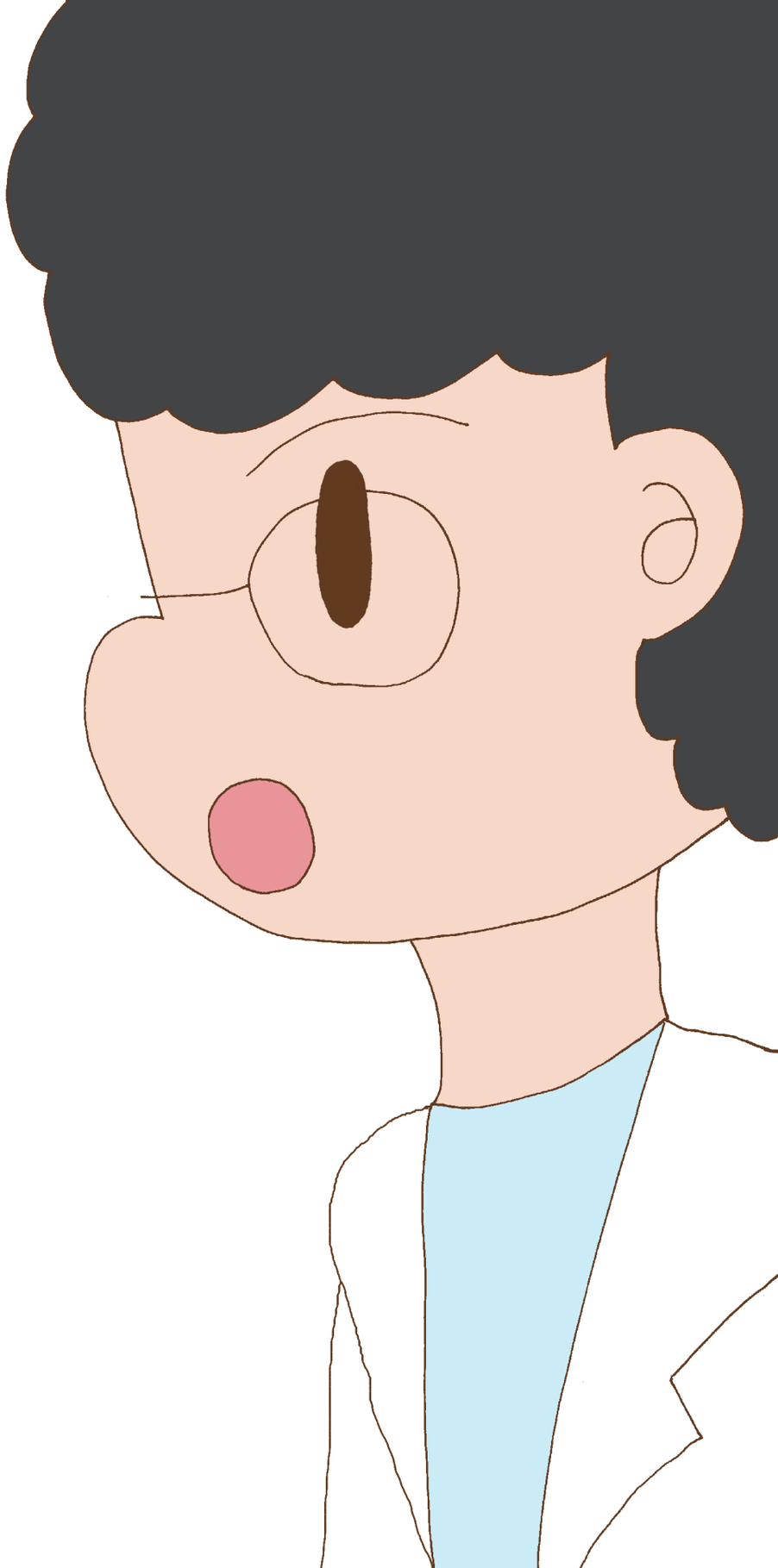
「すごい　ねつだ！　びょういんに　いそがないと！」
あわてた　おたすけまんは
ゆうきくんを　のせて　そらに　とびたちました。





「すみません！　すみません！」
おたすけまんは　こえを　かけるも　みんなから　みえない
そんざいなので　だれも　きがついて　くれません。
「どうしたの？　どこかわるいの？」 とびょういんの
せんせいが　きいてくれましたが
ゆうきのでない　ゆうきくんは　なかなか　いいだせません。

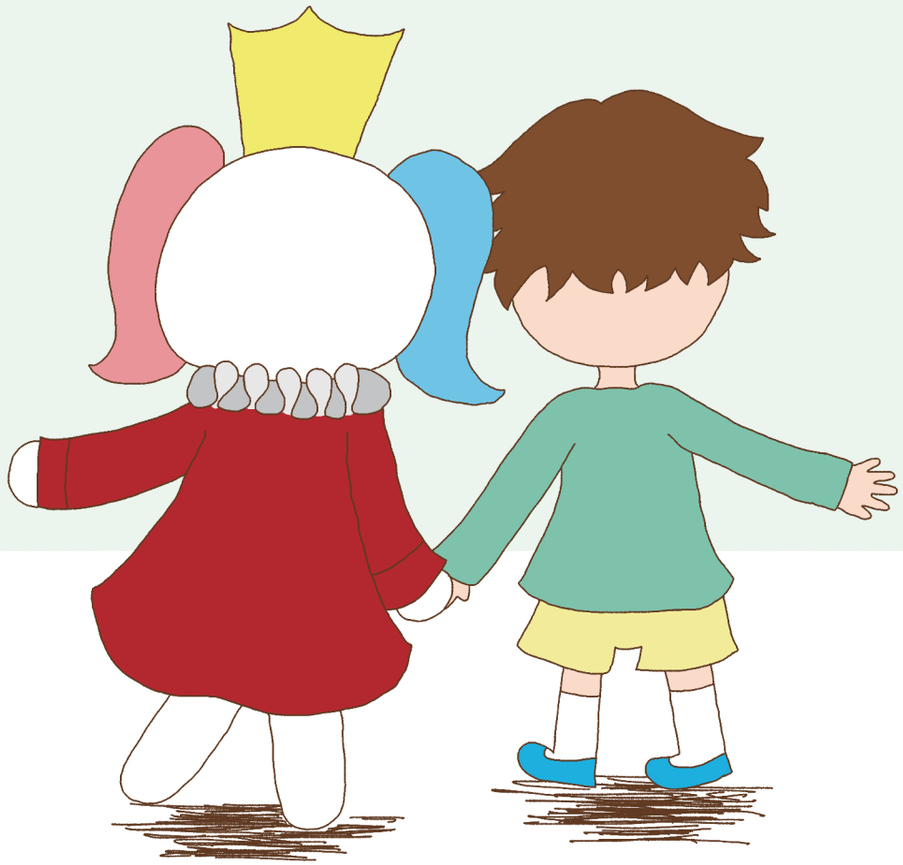
いつも　おたすけまんに　たよってばかりの　ゆうきくん。
「ゆうきを　だして　いわないと・・・」
おたすけまんが　ゆうきくんの　せなかを　おしました。
「・・・あ！　のど！　あたま！　がいたいです！！！」
ゆうきくんは　ゆうきを　ふりしぼって　いいました。
「よくいえたね！　ようすを　いまから　みましょう。」
せんせいは　にっこり。



ゆうきくんは　せんせいに　からだの
ようすを　みてもらいました。
すこしだけ　のどが　はれていまいた。
「きちんと　じぶんの　ようすを　つたえることは
とても　いいことなんだよ。
じぶんのことは　じぶんでつたえる。
そうすると　じぶんにあった　くすりが　でるからね。」
とせんせいは　おしえて　くれました。

ゆうきくんは　ほっとしました。

ゆうきくんは
「いつも　おたすけまんに　たよって
ばっかりだけど　じぶんのことは　じぶんでいわないと
つたわらないことも　あるんだな。」 とおもいました。

「きょうは　ゆうきくんが　じぶんの　たいちょうのことを
せんせいに　つたえられたから　すぐよくなったんだよ。」
おたすけまんは　いいました。
「ううん。　おたすけまんが　すばやく　びょういんに
つれてきたから　たすかったんだよ。いつもありがとう！」

おたすけまんが　きょうも　ゆうきくんのことを　おたすけします。